

金物工事

昨年12月16日に、沓巻金物(くつまきかなもの)の仮合わせを行いました。
鉄板の生地そのまま、柱の大きさや蹴放し(けはなし)の欠き込み部分に合わせます。



3月5日に、京都の工場で作製され、漆の焼付け塗装された沓巻金物が、鏡柱(かがみばしら)に取り付けました。鏡柱にピッタリと合っています。



大扉と潜戸の肘壺金物(ひじつぼかなもの)を取付け、扉の建込みの準備も万全です。



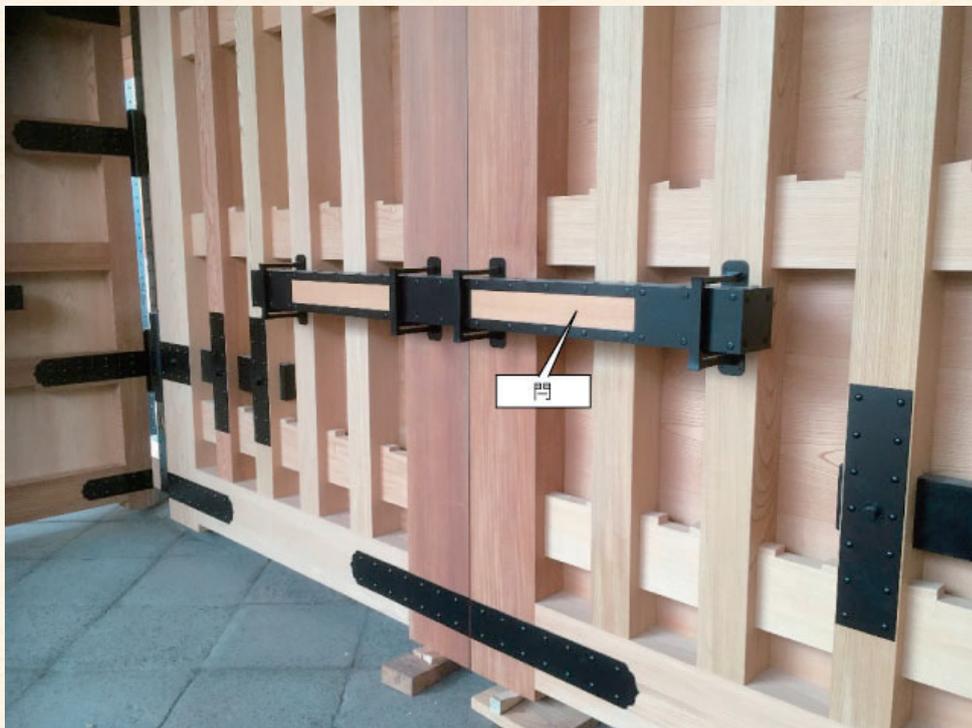
3月17日には、柱の四角に取り付ける筋金(すじがね)も鶴丸城御楼門の現場に到着し、金物の取付け工事が、本格的に始まりました。



大扉 鏡柱 冠木等に金物が取付くと、建物が引き締まって見えます。
いかにも城郭の櫓門(やぐらもん)らしくなってきました。



戸締りは、門(かんぬき)で行います。

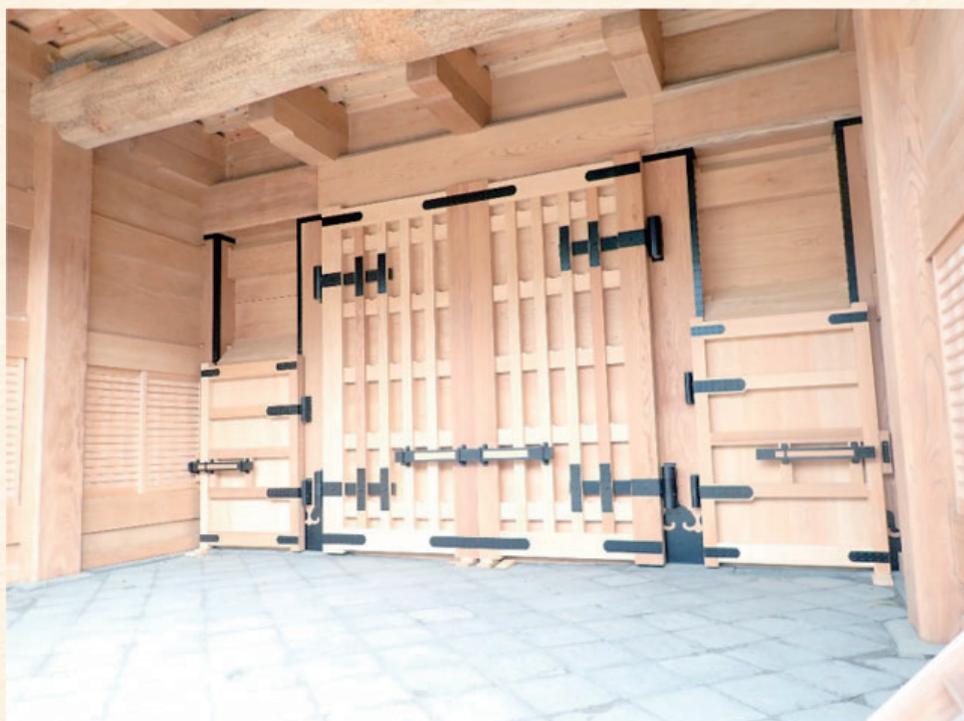


番所には、長押(なげし)を止める釘を隠すため、釘隠し金物(六葉 ろくよう)が取り付けられています。

六葉は、国の伝統的工芸品の指定を受けた「川辺仏壇」の技法を用いた川辺仏壇協同組合金具部会の製作です。



全ての金物が取付きました。



御楼門橋の青銅製の擬宝珠(ぎぼし)も新調され、御楼門と良くマッチしています。



3月31日 鶴丸城御楼門が見事に完成しました。
鹿児島県の新しいシンボルになる事でしょう。



後は、完成式を待つのみです。

